

部長紹介 ～私の専門分野～

My speciality and mission



整形外科部長 宮本 俊之

本年4月に赴任いたしました整形外科の宮本俊之です。前任地は長崎大学病院で、高度救命救急センターに付随して併設された外傷センター隊長として、2011年の設立から先日まで、長崎県で発生した多発外傷や重度四肢外傷、高齢者の合併症を伴った脆弱性骨折（立った高さ以下からの転倒による骨折）を中心に診療してまいりました。

外傷治療に目覚めた訳

ということで私の専門分野は整形外傷であります。きっかけは2度の海外臨床留学です。2006年にはUniversity of Tennessee, the Campbell Clinicに留学し、北米のレベル1外傷センターなるものを約1年間学んできました。毎日鉄砲で撃たれた人や、車に轢かれて骨折した人が次々と搬送され、日本では滅多に見られない外傷を毎日のように治療していました。その後2008年には短期間ではありますが、Massachusetts General Hospitalに留学し、外傷システムの構築について学び、それを基礎に長崎大学病院に外傷センターを設立する幸運に巡り合うことができました。

骨折の怖さ

一般に骨折というと、健康な人が不慮の事故で起こす事が多いと思われるかも知れませんが、高齢社会となった本邦においては、高齢者が転倒して起こすことが非常に多くなっています。骨折をすると痛みのため体動困難になります。

若い人であれば数日間は安静にしても問題ありませんが、高齢者は別です。1日ベッド上で安静にしていると体の筋肉は1%失われ、これは1年間の筋減少量と同じと言われています。つまり高齢者を10日ほど安静にさせるということは10歳年を取らせるのと同じ体力減少効果がある訳です。我々の治療は緊急ではないのですが、このことから準緊急扱いで全ての患者さんに48時間以内に何らかの治療を行うことを目指しています。またICUに入院するような重傷外傷の患者さんで脊椎や骨盤に骨折があれば、座位保持が困難となり肺炎などを引き起こすリスクが上昇するので、早期に手術してまずは座位をとれ、体位交換が容易になるように骨折部を安定させることが我々の使命となります。

長崎医療センターにおける役割

当院の高度救命救急センターにも、日々多くの外傷患者さんが搬送されてきます。我々の役割はこれらの患者さんに適切な初期治療を行い、救命し得た後に機能障害を残さないように骨折等の治療を速やかに行い、リハビリを経て社会復帰させることにあります。多職種連携を取らなければこのことは実現できませんので、多くの部署と協力しながら理想の治療が行える病院へと更に進化できるように努力していきたいと考えています。



2008年 Massachusetts General Hospitalにて
恩師のMark Vrahas MDと共に



北米留学中の1コマ、大型キャンピングカーを借りて1週間かけて
Grand Circle tourをしました。
研修医の先生、留学は楽しいですよ!!

